

令和5年度

# 事業報告書

令和6年6月

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

# 目 次

	ページ
1 管理部門	
(1) 法人の概要	3
(2) 理事会・評議員会等	4
2 事業部門	
1 「精神障害者等」の社会参加への支援	
イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）	
① 精神科デイケアの実施	
a デイケア事業概況	5
b 令和5年度に在籍した通所者の概要	5
c 年度別通所開始者・終了者数	6
d 年度別通所終了者の理由	6
e 通所希望見学者及び受理面接者数	6
f デイケア年間行事実施状況	7
g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況	7
h 地域生活支援事業	7
② O B会活動支援	
a アフターケア（O B会）関連業務	8
③ 家族会活動支援	
a 家族会関連業務	8
ロ 障害者就労支援事業	8
ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業	8
(1) 多機能型事業所の運営	
① 就労継続支援B型事業所の運営	
a メンバー構成	9
b 福祉手帳取得状況	9
c 通所者数	10
d 工賃	10
e 活動内容	10
② 就労定着支援事業所の運営	12
(2) 相談支援事業所の運営	
① ココクルの運営	12
2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及	
イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業	
① 地域精神保健スタッフ等研修事業	
a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座	12
② 実習生、見学の受け入れ事業	
a 施設見学等来所者状況	13
b 実習受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ	13
③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業	13
④ 市民講座の開催	13
⑤ 障害者のスポーツ振興への協力	13
⑥ 精神障がい者地域移行研修事業の実施 （北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））	
a 地域移行研修	14
b 地域移行エリア交流（課題・テーマ別）研修会	16
c ピアサポーター研修会	16
d その他	17
ロ 高次脳機能障害者支援事業等	
① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】	17
ハ ひきこもり対策推進事業	
① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営	
② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営	
a 相談支援実施状況	21
b 支援ネットワークの構築等	23
c 普及啓発、事業概要説明	24
③ 研修会	24

3	会計部門	
	貸借対照表	25
	正味財産増減計算書	26
	正味財産増減計算書内訳表	28
	財産目録	30
	財務諸表に対する注記	31
	収支計算書	34
	収支計算書に対する注記	36
4	監査報告	
	監査報告書	37
資料編		
1	理事・監事・顧問・参与・評議員名簿	38
2	財団法人設立の経過等	38
3	施設の概要	39
4	基本財産	39

# 1 管 理 部 門

## (1) 法人の概要

### 【事業内容】

公益財団法人北海道精神保健推進協会は、精神保健思想の啓発普及と精神障害者等(メンタルヘルスケアの諸問題を抱える人を含む。)の社会参加を促進し、精神障害者等の福祉の向上に寄与することを目的として運営しており、定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- ・精神保健思想の啓発普及
- ・精神障害者等の社会復帰のための医療施設(デイケア及び診療所)の設置及び運営
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
- ・障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業・特定相談支援事業
- ・障害者地域生活支援センター等の相談支援事業に対する指導援助
- ・精神障害者等の就労・雇用に向けた支援
- ・地域精神保健・医療・福祉充実のための支援
- ・精神保健医療福祉に関する調査研究
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

### ○法人の主な事業

精神障害者の社会復帰や社会参加の促進を図ることを目的に、精神科デイケア施設(独立型)である「こころのリカバリー総合支援センター」を運営するとともに、多機能型事業所として、「こころカ・プロダクション」を運営している。また、相談支援事業所「ココクル」を設置している。

「リカバリーセンター」では医学的管理のもとに、通所者への個別的相談や指導、社会的自立のための基礎的訓練、生活指導、作業訓練、レクリエーション、体力づくりなどを週間プログラムに沿って実施している。

また、北海道から委託事業として、高次脳機能障害者の受け入れ(平成16年度～)や精神障害者の入院から地域生活への移行支援事業の実施(平成19年度～)、「北海道ひきこもり成年相談センター」の運営(平成21年度～)を行うほか、札幌市からの委託事業として、「札幌市ひきこもり地域支援センター」(平成27年度～)の運営を行っている。

【役員】 理事9名・監事2名・評議員10名  
※氏名等資料編(38P)に掲載

【法人職員】(合計19名:常勤職員12名、非常勤職員7名)※R6.3.31現在

#### ○「こころのリカバリー総合支援センター」

- ・常勤職員 7名 [ 所長(医師・理事長)、事務職員1名、精神保健福祉士3名、  
作業療法士1名、保健師1名、(精神保健福祉士・兼務1名) ]
- ・非常勤職員 3名 [ 医師1名、作業療法士1名、事務職員1名 ]

#### ○就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 4名 [ 管理者(精神保健福祉士)、職業指導員(精神保健福祉士)1名、  
目標工賃達成指導員1名、生活支援員1名 ]
- ・非常勤職員 4名 [ 調理員 4名、 ]

#### ○相談支援事業所「ココクル」

- ・常勤職員 1名 [ 管理者(精神保健福祉士)、(相談員(精神保健福祉士・兼務)) ]

(2) 理事会・評議員会等

区 分	年月日、会場等	議事等の内容
令和5年度第1回理事会	令和5年4月13日 書面表決	令和5年度第1回評議員会の招集について
令和5年度第1回評議員会	令和5年4月20日 書面表決	理事の選任について
当法人監事による令和4年度決算等監査	令和5年5月19日 於：こころのリカバリー総合支援センター	令和4年度事業の実施状況、予算執行状況、財産目録等関係帳票の監査 (出席) 監事2名
令和5年度第2回理事会	令和5年6月5日 オンライン開催	令和4年度事業報告、決算報告及び令和4年度補正予算等
令和5年度第2回評議員会	令和5年6月21日 オンライン開催	令和4年度事業報告、決算報告及び令和4年度補正予算等
令和5年度第3回理事会	令和6年3月11日 かでの2・7 920会議室	令和6年度事業計画、収支予算等
令和5年度第3回評議員会	令和6年3月24日 かでの2・7 920会議室	令和6年度事業計画、収支予算

## 2 事業部門

### 1 「精神障害者等」の社会参加への支援

#### イ 精神科デイケア事業（こころのリハビリ総合支援センター）

##### ① 精神科デイケアの実施

##### a デイケア事業概況

	R5					R6								計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開設日数	20	21	22	22	22	21	23	21	22	20	20	21	255	
月間在籍者数 下段：高次脳再掲	146	148	152	151	155	156	156	155	155	156	155	156		
	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11		
延べ出席者数 (デイケア等) 下段：高次脳再掲	511	609	669	666	663	553	508	453	525	463	521	554	6,695	
	34	35	47	41	46	39	39	36	46	37	42	35	477	
通所開始 下段：高次脳再掲	2	3	5	2	4	1			2	2	3		24	
				1							1		2	
通所終了 下段：高次脳再掲	2	1	2				1	2	1	4		6	19	
												1	1	
一日平均出席数	25.6	29.0	30.4	30.3	30.1	26.3	22.1	21.6	23.9	23.2	26.1	26.4	26.3	

##### b 令和5年度に在籍した通所者の概要

表.1-1 通所者の件数

	男	女	計
前年度から継続	105	40	145
当年度に通所開始	15	9	24
計	120	49	169

表.2-1 通所者の年齢

年齢区分	男	女	計
10～19歳	0	3	3
20～29歳	28	16	44
30～39歳	38	14	52
40～49歳	30	10	40
50歳以上	24	6	30
計	120	49	169
平均年齢	39.0	35.4	37.2

表.3-1 疾患別状況

	人数	構成	※疾患別状況（高次脳機能障害内訳）	
F2 統合失調症	41	24.3%		
F3 気分（感情）障害	46	27.2%	F04 器質性健忘症候群	8 72.7%
F4 神経症性障害	24	14.2%	F06 脳損傷、脳機能不全および 身体疾患による他の精神障害	1 9.1%
F6 人格障害	0	0.0%	F07 器質性パーソナリティ行動障害	2 18.2%
F7 精神遅滞	4	2.4%	計	11 100%
F8 発達障害	33	19.5%		
F9 行動および情緒の障害	9	5.3%		
G4 てんかん性障害	1	0.6%		
G9 神経系のその他の障害	0	0.0%		
高次脳機能障害（※）	11	6.5%		
計	169	100%		

表.4-1 通所年数

通所年数区分	通所者	終了者	計
1年未満	20	4	24
1年以上～3年未満	27	1	28
3年以上～5年未満	27	3	30
5年以上～10年未満	39	6	45
10年以上	37	5	42
計	150	19	169
平均通所年数	6年5ヶ月	7年5ヶ月	6年6ヶ月
最短通所年数	25日	9ヶ月	
最長通所年数	24年8ヶ月	26年3ヶ月	

表.5-1 出席状況

通所日数区分	在籍者	終了者	計
50日以下	105	19	124
51日以上～100日以下	22	0	22
101日以上～150日以下	18	0	18
150日以上～200日以下	5	0	5
201日以上	0	0	0
計	150	19	169
平均通所日数	47.9	22.5	46.1

c 年度別通所開始者・終了者

（高次脳機能障害 再掲） （単位：人）

年 度	通所開始者	通所終了者
昭和63年度～令和4年度 高次脳機能障害	956	805
令和5年度 高次脳機能障害	47	40
令和5年度 高次脳機能障害	24	19
令和5年度 高次脳機能障害	2	1
計	980	824
	49	41

d 年度別通所終了者の理由

	年 度	就労・就学	事業所	在宅	中断	入院	死亡	その他	計
総数	昭和63年度～令和4年度	136	177	166	40	231	11	42	803
	（高次脳機能障害 再掲）	(4)	(15)	(10)		(6)	(2)	(3)	(32)
	令和5年度	5	4	8	0	2	0	0	19
	（高次脳機能障害 再掲）			(1)					(1)
	総計	141	181	174	40	233	11	42	822
		(4)	(15)	(11)		(6)	(2)	(3)	(33)

e 通所希望見学者及び体験者数

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
見学・体験者数	精神科デイケア	1	4	6	3	2	1	2	1	5	2	3	6	36
	高次脳機能障害	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

f デイケア年間行事実施状況

月	日	行事名	人数（メンバー）
5	5	特別デイケア	33
7	15	センター祭	54
8	10	就労ナイトケア	20
9	23	特別デイケア	17
10	9	特別デイケア	14
10	20	イベント「こころケアスロン」	29
11	3	特別デイケア	15
12	29	特別デイケア	27
1	8	特別デイケア	12
2	12	特別デイケア	12
2	22	ナイトケア「にんげん図書館」	11
3	23	特別デイケア、市民講座	12

g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況

月	日	行事名
4	7	札家連 家族講座
5	12	札家連 家族講座
6	16	札家連 家族講座
7	1	第11回北海道チャンピオンズカップ（フットサル） 参加
7	21	札家連 家族講座
8	18	札家連 家族講座
8	24	第30回記念 札家連ソフトボール大会1日目
9	25	第30回記念 札家連ソフトボール大会2日目【3位】
10	21	第5回ともにカップ（フットサル） 参加
10	25	札家連 家族講座
11	20	札家連 家族講座
12	23	ソーシャルフットボールサポーターズカップ2023 参加
12	26	札家連 家族講座
2	28	札家連 家族講座
3	11	札家連体育大会 参加
3	27	札家連 家族講座

h 地域生活支援事業

・地域生活支援業務

（単位：回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
家族訪問及び同行支援	0	0	0	1	3	0	0	1	1	1	3	1	11
関係機関とのケース会議	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
関係機関連携（電話・来所等）	0	1	3	1	3	2	1	0	1	0	0	2	14

・個別相談関連業務件数

（ ）は高次脳再掲（単位：回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
メンバー	36 (0)	81 (1)	71 (0)	70 (0)	102 (1)	70 (0)	67 (0)	68 (2)	82 (1)	66 (0)	63 (1)	75 (1)	851 (7)
OB	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	22 (0)
家族	0 (0)	4 (0)	0 (1)	0 (1)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	15 (3)
一般	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)

## ② OB会活動支援

### a アフターケア（OB会）関連業務

月	日	曜日	内 容	場 所	参加人数
			機関紙（こまん・たれ・ぶー）編集・発送		
			元気でやっとなる会（交流会） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

## ③ 家族会活動支援

### a 家族会関連業務

（単位：人）

毎月第1水曜日に会報誌「窓」の発送を行っている。

月	日	曜日	内 容	出席人数
4	19	水	令和5年度リラの会総会	15名
5	17	水	前職員を招いて「親なき後について」	19名
6	21	水	話し合い センター祭打合せ及び話し合い	10名
7	15	水	センター祭参加 たこ焼、焼きそばの調理販売	12名
8	16	水	話し合い 子の思い、親の思いなど自由に話し合う	4名
9	20	水	「グループホーム」についての話 NPO法人FEELSの代表を招いて	15名
10	18	水	「成年後見制度、生命保険信託」についての話 法律事務所弁護士・生命保険会社を招いて	15名
11	15	水	阿部所長の話 「日本の精神科医療の構造的な問題点」など	13名
12	20	水	「臨床美術」の体験 NPO法人アート・ウイズ・ライト代表を招いて	10名
1	17	水	新年の顔合わせ 今年の抱負などを会員全員で話し合い	6名
2	21	水	「事例から見るひきこもり支援～相談のあれこれ」 ひきこもり支援に対するセンターの取り組みについて	4名
3	19	水	1年を振り返って話し合い 今年を振り返りながら来年度の例会内容など	5名

## ロ 障害者就労支援事業

### ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業

#### （1）多機能型事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業）の運営

##### ① 就労継続支援B型事業所の運営

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に変更され、事業所内では感染予防を緩和しながらも継続しており、業務は支障きたすことなく継続できている。

事業所では、これまでも講義や実習生の受け入れにより精神障害当事者の経験を伝えてきた。令和5年度には、学生以外にも、民生委員児童委員に対して当事者の経験を伝える講話の依頼もあり、道内6か所の会場で報告を行っている。研修アンケートより「障害者の体験や障害に対して理解が深まった」や、「当事者の内面や健康的な部分を知った」という感想が多く寄せられた。また、講演の準備にあたり、メンバーが自分の体験や障害について考える機会となり、他のメンバーと一緒に共有する中で自分の本音を伝えたり、仲間を信頼するといった変化が生まれるなどの変化も見られている。

また、講義での伝え方は講話形式の他に、にんげん図書館（リビングライブラリーの手法を活用した啓発活動）を実施する機会が増えたほか、全国各地のリカバリーカレッジ実施団体や砂川市の当事者団体等と協働して一般市民が参加できるイベント内で実施することができた。体験談を話す対象が学生以外にも一般の方々となる機会を得ることができた。

情報発信については、ラジオ放送のほかに YouTube などの動画配信サービスを活用しながら、自主企画の活動も展開している。

映像制作や会議・研修中継の業務については、前年から連続して依頼される業務を継続している。業務に慣れたメンバー退所することもあるため、新たなメンバーが技術を習得し、業務に慣れる機会も繰り返し行っていくことが今後求められる。

令和5年当初の利用登録者は14名であり、年度途中で就労やボランティア活動のため3名が退所している。

#### a メンバーの概要 （令和6年3月31日現在）

- 登録者 12 名
- 性別： 男性 9 名、女性 3 名
- 年齢： 平均 42.1 歳 （最低 24 歳、最高 58 歳）
- 障害の状況：

障害名	人数
知的障害	1
精神障害	11
計	12

#### b 福祉手帳取得状況 （令和6年3月31日現在）

手帳等級	人数
療育手帳 B	1
療育手帳 B 一	2
精神保健福祉手帳 2 級	7
精神保健福祉手帳 3 級	2
計	12

c 通所者数

通所状況

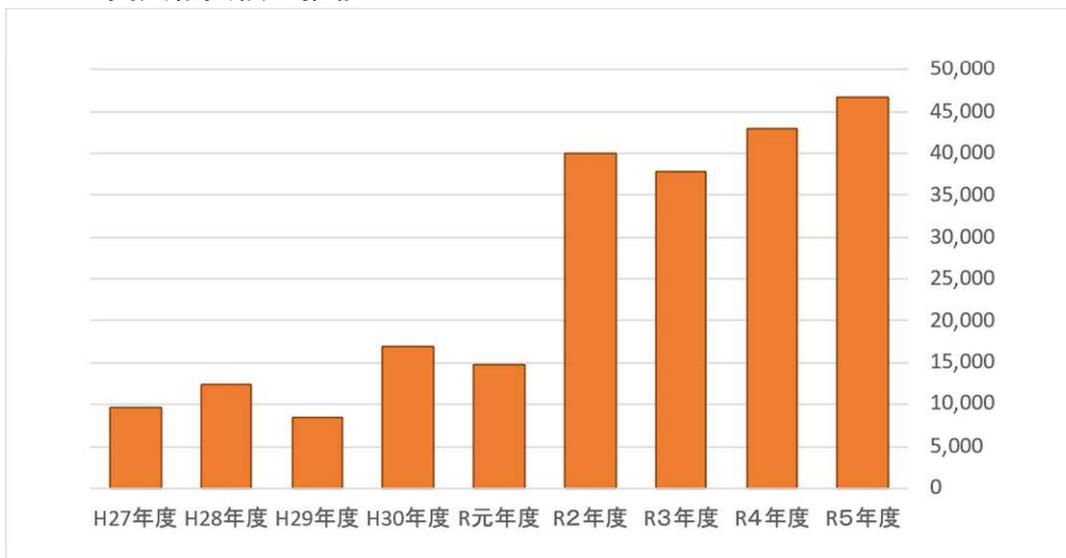
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	14	14	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12.9
平均通所者数/日	11.0	11.2	11.0	10.1	10.1	10.3	10.3	10.6	9.8	9.8	10.1	9.6	10.3

d 工賃

○支給額

工賃支給額	5,218,788 円
平均工賃月額	46,763 円

○工賃支給実績の推移



※令和5年度より算出方法が変更となっている。

e 活動内容

○行政との協働（委託事業など）の実績

市町村名	内容
札幌市	札幌市防災 DVD 複製業務

○他の NPO・市民活動団体との協働の実績

区分	件数	内容
活動報告	7 件	民生委員・児童委員、全国消費生活相談員等への活動報告・当事者体験の講話した
防災に関する研修等	7 件	災害時用配慮者避難に関する研修会(6回)・講義(1回)
商品販売	1 件	当事業所で制作した商品を北広島福祉ショップふゆーるで通年販売した
デザイン制作	4 件	にんげん図書館や名刺等に使用する似顔絵イラスト作成、DVD ラベルに使用するイラスト作成

区分	件数	内容
書籍販売取扱業務	1 件	北海道大学病院リハビリテーション部発行の高次脳機能障碍の書籍「今日はいくもり、明日は晴れ」の注文対応及び発送業務を行った。取扱数は39冊であった。

### ○講義実績

区分	依頼先
精神保健福祉学科等	6 大学 2 専門学校
作業療法学科	3 大学 2 専門学校
看護学科	5 大学
その他	12 団体 2 学校

新型コロナウイルス対策の行動制限緩和に伴って、対面での講義を実施した。講義・グループワークの他、にんげん図書館などの語りを通して当事者を理解してもらう方法も取り入れている。また、援助実習を希望する養成校には、学生に講義をする機会を設けてもらい、学生が当事者理解や事業所の活動に対する理解が深まるようにしている。

### ○撮影・映像制作（依頼による）

区分	件数	内容
撮影・映像制作	20 件	障害者技能競技会のダイジェスト映像、学習教材映像、研修会記録映像等の制作
オンライン配信	16 件	研修会などのオンライン配信

前年度と比較して、研修教材の制作依頼は4件増加しており、オンライン配信研修会の件数は2件減少した。

### ○撮影・映像制作（自主企画による）

作品名	回数	摘要
Youtube でのライブ放送（定期配信・収録配信）	25 回	第1・3 火曜日午後配信

これまでの映像を配信する技術を活かしながら、事業所スタッフメンバーの情報発信の場を設けている。

### ○ラジオ放送

番組	回数	放送局／周波数	摘要
「ここプロありのままラジオ ～ファンキーで行こう！」 毎週木曜日 14:30～15:00 放送	52 回	エフエムアップル 76.5MHz	令和元年5月 より放送

## ○イベント企画

- 第3回全国リカバリーカレッジ文化祭 in 名古屋  
セッション「ヒューマンライブラリー生きている本との対話」
- 第2回にんげん図書館 in 砂川オアシスパーク
- 当法人公開市民講座「生きている本」が語る～障害をもって生きるってどんなこと?～」

ヒューマンライブラリーは「生きている本（当事者）」を「読者（参加者）」へ貸し出す図書館を見立てた対話型のイベントである。第3回全国リカバリーカレッジ文化祭では当事業所メンバー4名が「生きている本」として、スタッフは司書となり、語りを通して読者に当事者体験を伝えている。

## ② 就労定着支援事業所の運営

令和5年4月時点での利用者2名は就業を継続している。うち1名は期間満了により支援を終了した。就労継続支援B型事業所から就労したメンバー1名に対して、支援開始しており、継続して働くことができるように支援していく。  
就労継続支援B型事業所から就労を目指しているメンバーもいることから、今後必要に応じて就労定着支援への登録を勧め、就労定着の支援を行っていく。

## (2) 相談支援事業所の運営

### ① ココクルの運営

当法人では「精神障害者等の社会参加の促進」を目的としており、これまでデイケア通所者や家族等からの相談に応じているところである。障害者総合支援法に基づき、①就労支援事業やグループホーム等の障害福祉サービスの利用促進を図るため、②こころカ・プロダクションやその他障害福祉サービスの利用更新（概ね1年毎）のため、平成28年に相談支援事業所を開設し医療から福祉へ繋がる支援を行っている。令和5年度の実績としては下記のとおりとなっている。

## ○相談実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	0	1	2	0	1	0	0	0	1	1	0	1	7
電話・メール相談	12	15	18	15	10	14	16	17	19	15	18	13	182
面接相談	11	14	16	13	12	15	14	13	15	13	12	15	163
訪問・同行支援	6	9	12	10	11	14	16	17	15	12	18	16	156
関係機関との連絡	10	13	15	14	12	15	17	19	16	14	19	18	182

## 2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及

### イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業

#### ① 地域精神保健スタッフ等研修事業

##### a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

② 実習生、見学の受け入れ事業

a 施設見学等来所者状況

月	日	曜日	内 容	人数
8	1	火	家庭生活カウンセリングセンター受講者	11
8	25	金	天使大学院生	1
9	5	火	札幌市精神保健福祉相談員研修	12
11	29	水	札幌医科大学保健医療学部看護学科学生	1
12	18	月	北海道札幌稲穂高等支援学校教員	1
2	5	月	あるく（札幌市障がい福祉サービス事業所）職員	1
2	27	火	札幌学院大学学生	2
合計				29

b 実習生受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ

内 容	人 数
福祉系学科（北海道医療大・札幌学院大・星礎道都大・北翔大・心療福祉）	10
作業療法学科（北海道大学・札幌医科大学・吉田学園）	2
看護学科（北海道医療大学・札幌医科大・札幌保健医療大）	27
医学部（北海道大学）	4
計	43
実習事前訪問等対応	13回
実習指導者会議等出席（オンライン会議も含む）	3回

③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業

社会福祉団体など関係機関の要請に基づき、研修会への講師派遣や企画運営等への協力・技術支援を行っている。

④ 市民講座の開催

日 時：令和6年3月23日（土）13：00～16：00

会 場：こころのリカバリー総合支援センター

内 容：「生きている本」が語る～障害を持って生きるってどんなこと？

こころリカ・プロダクションメンバーによるにんげん図書館と施設見学

参加者：14名

⑤ 障害者のスポーツ振興への協力

精神障害者のスポーツ振興の意味も含め、精神障害者団体への体育館貸出などへの協力を検討中である。

## ⑥精神障がい者地域移行研修事業の実施

### a 地域移行研修

圏域	開催日・会場 参加者数 (当事者再掲)	内 容
南渡島・ 北渡島檜山・ 南檜山	令和5年11月28日(火) 会場：北斗市かなで〜る 大会議室 参加者数：40名 (4名)	○講義「臨床場面のコミュニケーションの質を考える ～オープンダイアログとピア茶話会を比較して」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 助言者：こころカ・プロダクションピアスタッフ ○報告「地域移行（退院促進）支援について」 報告者 函館渡辺病院 医療福祉支援科 佐藤貴之氏 亀田北病院 地域連携室 藤田雅弘氏 富田病院 地域医療連携係 松田征洋氏 なるかわ病院 医療相談室 山村 哲氏 八雲総合病院 地域医療連携課 吉田尚教氏 ○演習「「圏域・職種を混ぜてディスカッション」 ○発表「グループ毎に報告」・まとめ
札幌	令和6年2月2日～ 3月15日 期間中再生数：111回	動画視聴研修 ① 講演『誰もが安心して“わが町”で暮らしていくために必要なこと』 ②実践報告「わが町での“にも包括”とは？」
後志	令和5年7月1日～ 8月15日 視聴申込：7機関14名	動画視聴研修 ①講演『誰もが安心して“わが町”で暮らしていくために必要なこと』 ②実践報告「わが町での“にも包括”とは？」
	令和5年9月22日 会場：後志総合振興局 参加：36名 (4名)	○「保健所の紹介～あなたの地域に保健所があります」 報告者 小樽市保健所健康推進課 主査 吉川里紗氏 岩内保健所健康推進課 保健師 田尾遥菜氏 倶知安保健所健康推進課 保健師 川上斉子氏 ○演習「保健所に聞きたい・知りたい」
	令和6年1月26日 会場：倶知安町保健福祉会館 参加：43名 (3名)	○話題提供「地域実践から知る後志の住居探しの問題」 話題提供 いしばし病院地域移行推進室 福吉綾子氏 羊蹄山ろく相談支援センター佐々木加奈子氏 しりべし圏域総合支援センター寒河江美幸氏 ○講演「精神障がい者の地域生活を支える ～(株)N.フィールドの実践」 講師：(株)N.フィールド住宅支援部 課長 谷所敦史氏
南空知	令和6年2月27日 会場：まなみーる 参加：26名 (5名)	○活動報告「精神障がい者地域生活支援事業」 南空知地域生活支援センター ○演習
中空知	令和5年9月4日 会場：砂川市地域交流センターゆう 参加：45名 (4名)	○動画視聴「あらためて地域移行とは？」 ～ピアサポーターの役割も含めて～ ○グループ討議 「地域移行をすすめるための課題、それぞれの立場から」
	令和5年11月30日 会場：砂川市地域交流センターゆう 参加：41名 (3名)	○動画視聴「ピアサポーター紹介動画」 ○講義「道内のピアサポート活動について」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 課長 ○グループ討議
北空知	令和5年11月28日 会場：サークルハウス ふれあいセンター 参加：32名 (12名)	○説明 北空知圏域地域移行支援協議会会長 板谷氏 ○講演「医療保険制度と成年後見」 講師：東ヶ丘病院 精神保健福祉士 板谷氏 ○講演「リカバリーストーリー」 北空知障がい者支援センターあつぷる ピアサポーター2名 ○講演「地域定着支援の実践報告」 北空知障がい者支援センターあつぷる相談支援専門員 高田氏

圏域	開催日・会場 参加者数 (当事者再掲)	内 容
留萌	令和5年9月5日 場所：留萌圏域地域生活 移行支援協議会 参加：17名	○説明「地域包括ケアシステムについて」 報告：留萌圏域地域生活支援センター
	令和5年10月6日～ 11月30日 参加：8名	動画視聴研修 ①講演『誰もが安心して“わが町”で暮らしていくために必要なこと』 ②実践報告「わが町での“にも包括”とは？」
西胆振	令和6年2月26日 場所：東胆振圏域研修 参加：5名 (3名)	○動画視聴「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 ○受講「東胆振圏域における精神障害者地域生活支援事業について」 講師：苫小牧地域生活支援センター ○受講「日本社会が精神障がい者を扱ってきた歴史を学ぶ～診察場面でのコミュニケーションを考える」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 ○グループワーク
東胆振	令和6年2月26日 会場：苫小牧市福祉ふれあいセンター 参加：32名 (5名)	○動画上映「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 ○活動報告「東胆振圏域における精神障害者地域生活支援事業について」 講師：苫小牧地域センター ○講義「日本社会が精神障がい者を扱ってきた歴史を学ぶ～診察場面でのコミュニケーションを考える」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 ○グループワーク
日高	令和5年10月13日 会場：浦河町総合文化会館 参加：15名 (7名)	○講演「当事者研究の誕生」 講師：東京大学先端科学技術研究センター 屋敷紗月氏 ○研究発表「世界の当事者研究」 中国・韓国・ニュージーランド当事者
上川中部	令和5年10月28日 会場：旭川市障がい者福祉センターおびつた 参加：48名 (4名)	○講演「診察室で考えていること」 講師：倶知安厚生病院 医師 土田正一郎氏 ○事例検討「20歳未満で長期入院している当事者の退院支援について」 事例提供：旭川市障害者総合相談支援センターあそーと 相談支援専門員 佐藤剛氏
上川北部	令和6年3月7日 会場：名寄市立総合病院 参加：24名 (3名)	○講演「統合失調症と地域移行」 講師：名寄市立病院 医師 野口剛志氏 ○事例検討「精神障がいのある方の就労支援」 事例提供：士別市役所
富良野	令和6年2月2日 会場：ラベンダーの郷 参加：12名	ディスカッション「富良野圏域における地域移行・地域定着支援の体制やそれぞれの役割を考える」 進行：社会福祉法人蒼溪会 有野哲章氏
宗谷	令和5年10月6日 会場：稚内総合福祉センター 参加：21名 (4名)	○報告「宗谷圏域における精神障がい者地域生活支援事業の状況」 サポートセンターゆかり ピアサポーター ○講義「地域で支えあえる精神障がい者支援のヒント～オープンダイアログを参考に」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 ○事例提供 事例提供：稚内病院医療福祉相談室 釜氏 ○演習
北網・遠紋	令和5年8月3日～ 8月4日 会場：北見市東地区 公民館 参加：16名 (6名)	○ピアカウンセリング研修 オリエンテーション 演習 信頼関係とグループづくり 演習 信頼関係作りの基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ※全課程修了者には参加証を発行
	令和5年12月1日 会場：紋別市総合福祉センター はーとびあ21 参加：54名 (12名)	○「ピアサポーターとわいわいトーク de 学び合おう～地域で精神障がい者とかかわるために～」 ○報告及び演習 進行：北網・遠紋圏域、宗谷圏域、道北圏域、上川中部圏域ピアサポーター

圏域	開催日・会場 参加者数 (当事者再掲)	内 容
十勝	令和5年12月8日 会場：帯広市保健福祉センター 参加：60名(2名)	○講演「アウトリーチを通してみえてきた地域生活支援とは」 講師：こころのリカバリークリニック十勝 吉川徹氏 ○活動報告 帯広生活支援センター ○状況提供 帯広保健所 岡崎奈穂美氏
釧路・根室	令和5年7月21日 会場：釧路市柳町スケートリンク場会議室 参加：45名(2名)	○研修「精神領域の支援について」 報告：釧路市保健所 大水賢憲氏 根釧地域生活支援センター 当事者 他 ○情報提供

令和5年度地域移行研修については、センター長会議等にて打ち合わせを行い、各圏域が希望する研修について意向を確認した後、研修企画を行っている。

また、オンデマンドによる研修素材も準備して各圏域の状況に対応した研修を実施できるようにしている。

### b 地域移行エリア交流（課題・テーマ別）研修会

研修概要	内 容
令和5年9月28日(木) ～9月29日(金)  会場：かでの2・7 520会議室  参加者数(当事者再掲)： 81名(14名)	<b>【1日目】</b> ○研修の趣旨説明 ○基調報告基調報告「北海道の動向について」 講師：北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課 精神保健医療係 武者 哲也 主任 ○演習①「コロナ禍における圏域ごとで取り組みの振り返り」 ○全体報告～圏域毎に報告  <b>【2日目】</b> ○スキルアップ研修「支援におけるソリューションの視点」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 ○演習②「圏域を混ぜてディスカッション」 ○演習③「職種別のディスカッション」 ○演習④「圏域に戻って話し合い～ロードマップの作成」 ○全体会・まとめ

### c ピアサポーター研修会

研修概要	内 容
令和5年10月25日(水) ～10月27日(金)  会場：かでの2・7 730会議室  参加者：76名(60名)	<b>【1日目】</b> ○挨拶・理事長講話 ○演習・アイスブレイク <b>【2日目】</b> ○講演「ピアの歴史を紐解く」 講師：こころのリカバリー総合支援センター 所長 ○経験別グループワーク ○ワークショップ「今の自分を構成しているものって？」 説明／演習／グループ内発表 <b>【3日目】</b> ○ワークショップ「あのピアに聴いてみたい ～新人ピアから経験豊富なピアへ」 ○研修グループ振り返り

### ピアサポーター研修実行委員会

開催日	内 容
第1回 8月7日(月) 第2回 8月22日(火) 第3回 9月20日(水) 第4回 11月16日(木)	ピアサポーター研修会の企画検討

今年度の構成は3圏域のピアサポーター及び当法人職員による

## d その他

### (1) オンデマンド研修

#### ○地域移行研修会映像（2023年3月7日旭川市にて実施した録画映像）

①	講演『誰もが安心して“わが町”で暮らしていくために必要なこと ～精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業より～』 講師 社会福祉法人養和会 理事長 廣江 仁 氏
②	実践報告「わが町での“にも包括”とは？」 旭川市の実践について～旭川市自立支援協議会地域連携部会 北広島市の実践について～北広島市自立支援協議会にも包括プロジェクト 函館市の実践について～函館市自立支援協議会（職能団体、包括支援センターとの協働）

### (2) センター長会議

開催日	会議	内 容
令和5年4月25日	第1回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換（今年度研修計画、各圏域の近況報告、オンデマンド配信など）
令和5年7月12日	第2回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換（全道ピア研修など確認）
令和5年9月28日	第3回センター長会議 (対面、zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換（今年度研修計画、各圏域の近況報告）
令和6年3月1日	第4回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換（今年度研修計画、各圏域の近況報告）

各圏域間での情報共有及び意見交換の機会となるよう道内各センター長との会議を設けた。

### (3) ピアサポーター会議（zoom）

開催日	参加者	内 容
令和5年4月20日	43名	全道ピア研修について意見交換
令和5年5月18日	51名	テーマトーク「普段交流の少ない圏域の方々と話してみたい ～食のハナシ～」
令和5年6月15日	42名	発題トーク：富良野・上川中部ピアサポーター 「自分たちにとっての理想の社会とは」～居場所について～
令和5年7月20日	49名	発題トーク：後志ピアサポーター 「コロナ禍を経て、改めてピア活動を考える」
令和5年8月17日	43名	アイスブレイク：西胆振ピアサポーター テーマトーク：「ピアになって日常生活に役立ったこと」
令和5年9月21日	43名	テーマトーク：「全道ピア研修に期待すること」
令和5年11月16日	37名	全道ピア研修プログラム「聞きたい・伝えたい」Part II
令和5年12月21日	40名	報告 遠紋圏域研修「ピアサポーターとわいわいトーク de 学びあおう」 意見・感想、圏域からの情報提供
令和6年1月18日	39名	テーマトーク「2024年の目標」
令和6年2月15日	42名	話題提供：阿部理事長 「動画を視聴して阿部先生と語ろう」
令和6年3月21日	47名	テーマトーク「今年度の振り返り、次年度どんな活動をしたいか」

コロナ禍により地域移行支援の活動ができなくなったピアサポーターの活動へのモチベーションを保つために、他圏域のピアサポーターと交流できる場としてピアサポーター会議を継続開催している。

## □ 高次脳機能障害者支援事業等

### ① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】

#### 1. 支援プログラムの実施状況及び相談件数

○リハビリテーションプログラム実施状況（※通所登録者数は各月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通所登録者（人）	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	11	11	
実施回数（回）	20	21	22	22	22	21	23	21	22	20	20	21	255
延べ人数（人）	34	35	47	41	46	39	39	36	46	37	42	35	477
1日平均通所者（人）	1.7	1.7	2.1	1.9	2.1	1.9	1.7	1.7	2.1	1.9	2.1	1.7	

- ・A氏 30代後半男性 交通事故後の器質性情緒不安定性障害
  - ・B氏 20代前半女性 脳機能不全による人格および行動の障害
- 〈登録者の動向〉

コロナウイルスの流行により、他の持病があるため通所を中断する方、高齢のため外出は自粛するという方が依然としている。他事業所を併用利用している方もいる。

【プログラムの内容】

AM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

（バドミントン、バレー、卓球等）

小グループ（クローズグループ）による話し合いで構成される活動

（料理、話し合い、外出等）

軽スポーツ エクササイズやヨガ等のゆるやかな運動

治療系プログラム（心理教育、WRAP、自分のトリセツ作り、アンガーマネジメント等）

PM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動（バドミントン、バレー、卓球等）

行事の企画運営グループ等

クラブ活動（陶芸、絵画、英会話、茶道、スポーツ、卓上ゲーム、麻雀等）

行事への参加：センター祭 等

※通所日数は、他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど個々の状況に合わせて決定している。その中で複数あるプログラムから自分に適したプログラムを選択し参加する。（必要に応じスタッフがプログラム選択の助言を行う）

○相談支援件数と内容

	計
電話（家族・本人）	13
電話（関係機関）	12
来所相談	20
訪問・同行	35
文書・メール	34
見学（家族・本人）	1
見学（関係機関）	1
計	116

【相談内容】

- ・本人～対人関係や生活上の悩みや不安、就労先での工夫、日常生活における計画や手順の工夫など
- ・家族～関わりの苦勞、工夫を聴くほか、本人と他の家族との意思疎通や目標確認、年金等の手続きの相談
- ・医療機関（脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック）～退院後の支援、リハビリテーションについて
- ・行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

○同行支援・家庭訪問と内容

・家庭での生活状況の確認や家事等の本人の自立に向けた助言、指導を行った。

○精神科医による診察

・外来診察 【33件】

近年はデイケア利用者だけではなく、定期的な診察や生活支援のために利用する方も増えている。手帳の申請や、裁判に係る意見書も作成。

2. 支援計画の作成と評価

○新規支援計画の作成

医師の診断とコメディカルによる認知機能、ADL 評価を行い、今後必要とされる地域資源やリハビリプログラムの検討を行った。

○本人・家族の目標設定と振り返り

	実施内容
4月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
10月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
10～11月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

3. 支援調整・検討会議の開催

○施設内支援検討会議

	回数	実施内容
5月	1	対応の検討、支援計画の評価検討
10月	2	対応の検討
11月	3	ケース検討、支援計画の評価検討
12月	1	対応の検討
1月	1	対応の検討
2月	1	対応の検討
3月	7	対応の検討

○他機関との支援調整会議

実施日	参加機関	内容
2月8日	本人、当センター、国際交流サポートセンター職員	今後の生活に向けて
3月14日	当センター、地域包括支援センター、区担当者、ケアマネ、コロポックル	本人とご両親の支援について
3月26日	本人、当センター、GH職員	今後の生活に向けて

○その他他機関との連携

実施日	参加機関	内容
4月19日	本人、当センター職員、不動産会社	自立に向けて物件の相談
6月22日	家族、当センター職員、区担当者	年金申請のための相談
8月9日	本人、当センター職員、区担当者	年金申請のための相談
8月17日	家族、当センター職員、区担当者	年金申請のための相談
2月8日	本人、当センター職員、国際交流サポートセンター職員	本人の今後の生活に向けて相談同行

#### 4. 関係機関相互の情報交換及び参加研修会等

実施日	実施内容	主催
6月14日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会①	講習会実行委員会
6月28日	令和5年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
6月28日	令和5年度 第1回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター
7月26日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会②	講習会実行委員会
8月15日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会③	講習会実行委員会
9月20日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会④	講習会実行委員会
11月1日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑤	講習会実行委員会
11月1日	高次脳機能障害委託事業者打ち合わせ会議	北海道
11月19日	北海道 高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	講習会実行委員会
12月1日	令和5年度高次脳機能障がい者支援連絡会議	北海道
12月20日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑥	講習会実行委員会
2月16日	令和5年度 第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
2月16日	令和5年度 第2回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター

#### 5. 支援ネットワークの構築

ホームページやパンフレット、研修会等で当施設を知った関係機関からの支援法や情報を求める連絡を受け、これまで確立したネットワークをもとに情報の伝達を行った。また、ケースを通じて就労継続事業所や保健師、介護支援専門員、訪問リハスタッフなどで支援目標の確認を共同で行うことや研修会の企画を共同で行うことで、お互いに相談でき対応の調整がしやすくなった。

#### 6. 講演・講師派遣

##### ○ 高次脳機能障害者リハビリテーション講習会について

北海道高次脳機能障害者リハビリテーション講習会の実行委員会事務局として運営。

日時：11月19日（日） 13:00～16:00 北海道大学学術交流会館 講堂

開催テーマ「障害を持った私と就労～十人十色のストーリー～」

##### 第1部【体験談・支援報告】

・クロスジョブ札幌 当事者T氏 クロスジョブ札幌 角井氏 北大病院 玉川氏

・こころのリカバリー総合支援センター

当事者M氏 こころのリカバリー総合支援センター阿部氏 野上氏

概要：当事者から受傷後のストーリーを語っていただき、支援してきた関係機関より解説や補足を行った。

##### 第2部 Q&A コーナー

概要：申込時に受け付けた質問（5問）を事前に実行委員に振り分け、スライドを準備した上で当日に

回答した。当日会場から回収した質問にもピックアップして答えた。内容としては、症状についてや支援体制や就労についての制度のことなどが寄せられた。

##### ○ 普及啓発

北大リハビリテーション部が作成した書籍「今日はおくもり。明日は晴れ」の販売代行

ハ ひきこもり対策推進事業

- ① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営
- ② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営

a 相談支援実施状況

1. 相談支援概要

○相談件数（北海道）（単位：件）

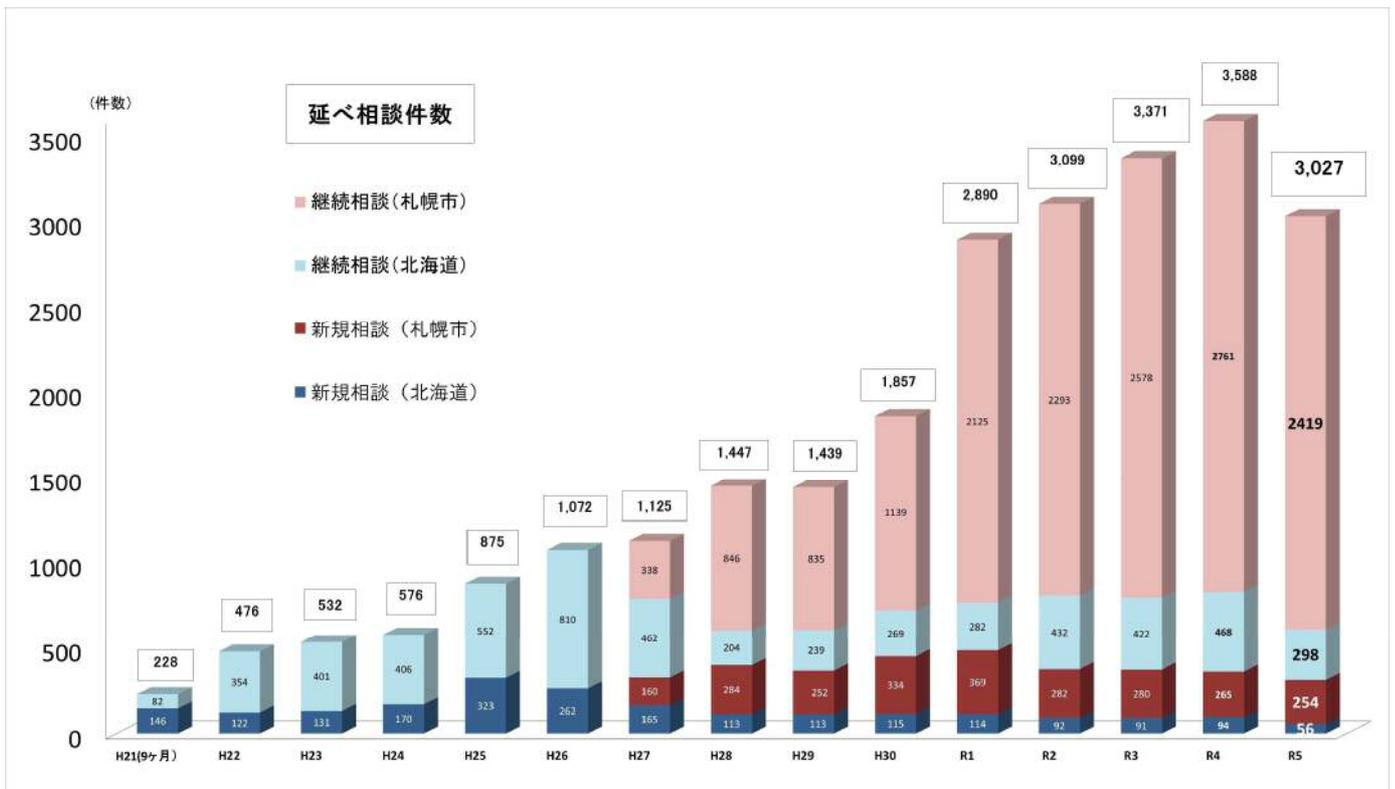
相談件数計	354
新規相談	56
継続相談	298

○相談件数（札幌市）

相談件数計	2,673
新規相談	254
継続相談	2,419

○相談件数（合計）

相談件数計	3,588
新規相談	310
継続相談	2,717



○相談方法内訳（北海道）

	新規	継続	計	構成比
電話	30	29	59	16.4%
来所	5	59	64	17.8%
メール	10	187	197	54.7%
アウトリーチ	11	19	30	8.3%
出張相談等		4	4	1.1%
小計	56	298	354	
連携	-	6	6	1.7%
計	56	304	360	100%

※「電話」にオンライン相談1件を含む

○相談方法内訳（札幌市）

	新規	継続	計	構成比
電話	155	258	413	14.4%
来所	20	1047	1067	37.1%
メール	44	649	693	24.1%
アウトリーチ	7	411	418	14.5%
出張相談等	28	54	82	2.9%
小計	254	2419	2673	
連携	-	204	204	7.1%
計	254	2623	2877	100%

※「電話」にオンライン相談1件を含む

○相談方法内訳（合計）

	新規	継続	計	構成比
電話	185	287	472	14.6%
来所	25	1106	1131	34.9%
メール	54	836	890	27.5%
アウトリーチ	18	430	448	13.8%
出張相談等	28	58	86	2.7%
小計	310	2717	3027	
連携	0	210	210	6.5%
計	310	2927	3237	100%

※「電話」にオンライン相談2件を含む

3. ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

○精神科デイケアへの通所

	北海道	札幌市	総計
令和5年度	2	7	9
平成27年度～令和4年度	-	40	79
平成21年度～令和4年度	39	-	
計	41	47	88

## ○ひきこもり外来状況

年度	北海道		札幌市		総計
	令和5年度	平成21年度～ 令和4年度	令和5年度	平成27年度～ 令和4年度	
新規ケース	2名	68名	29名	139名	238名
延べ回数	21回	447回	750回	2,489回	3,707回

### b 支援ネットワークの構築等

#### 1. ひきこもり支援者連絡会議実施状況（北海道）

「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認後、連絡調整し、研修会等をオンラインも含め実施した。今年度は約250名の参加があった。

月	日	実施内容	備考
6	29	京極町（倶知安保健所）研修会（講師）	参加者18名
8	8	月形町（岩見沢保健所）ケース検討・個別相談	-
9	11	置戸町（北見保健所）研修会（講師）	参加者9名
10	3 4	枝幸町（稚内保健所）研修会（講師）・ケース検討・個別相談	参加者20名 ※ひきこもり元当事者同行
10	23	帯広市（帯広保健所）研修会（講師）	参加者49名
10	24	広尾町（帯広保健所）研修会（講師）・個別相談	参加者20名
11	6	釧路町（釧路保健所）研修会（講師）・ケース検討・個別相談	参加者18名
11	14	壮瞥町（室蘭保健所）ケース検討・個別相談	-
11	21	南幌町（岩見沢保健所）ケース検討	-
12	5	旭川市（旭川保健所）研修会（家族交流会）	※ひきこもり元当事者同行
12	28	倶知安町（倶知安保健所）研修会	参加者52名
1	16	本別町（帯広保健所）研修会（民生委員）※来所	参加者13名
1	30	千歳市（千歳保健所）研修会（家族交流会）	参加者21名
2	8	恵庭市（千歳保健所）研修会	参加者21名
3	12	北広島市（千歳保健所）ケース検討	-

#### 2 ひきこもり出張無料相談会・よりどころ実施状況（札幌市）

##### ○ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30～16:00に実施した（1回あたり最大4件まで予約可）。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。各回、申込状況に合わせて相談員を調整した。

##### ○居場所「よりどころ」（親の会・当事者会）への専門職の派遣

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している居場所「よりどころ」に「親の会」へ相談員を派遣した。また、「親の会」では月1回、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、「よりどころ」がきっかけで再相談に至ったケース、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

### c 普及啓発、事業概要説明

問い合わせ、相談先の掲載、インタビュー（報道機関や大学の研究等）やアンケート協力、リーフレット送付インターネットによる発信等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。「当センターを知ったきっかけ」として、「ホームページ」がもっとも多い。

○ひきこもり相談ホームページアクセス件数（各ページ合計）

- ・令和5年度（15,616件） ※1日あたり約43回のアクセス

### ③研修会

#### ○ひきこもり支援機関関係職員等研修会

月	日	実施内容	備考
3	25 ～ 31	令和5年度ひきこもり支援機関関係職員等研修会「不登校とひきこもり」 インターネット配信期間：3/25(月)～3/31(日) 講師：元不登校経験者2名（当センター相談者） 参加者居住地内訳：北海道144名(札幌市以外)、札幌市53名、道外8名	※講師：コーディネーター3名

※ひきこもりサポーター養成研修事業も兼ねている。

※例年行う研修会は、コロナ禍を機に、録画配信による「インターネット配信」研修会としたが、遠方であっても参加しやすさがあるため、引き続き「インターネット配信」による研修会として行っていく。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間（24時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

#### ○ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	25 ～ 31	令和5年度ひきこもり支援機関関係職員等研修会「不登校とひきこもり」 インターネット配信期間：3/25(月)～3/31(日) 講師：元不登校経験者2名（当センター相談者） 参加者居住地内訳：北海道93名(札幌市以外)、札幌市26名、道外2名	※講師：コーディネーター3名

※ひきこもり支援機関関係職員等研修会も兼ねている。

※例年行う研修会は、コロナ禍を機に、録画配信による「インターネット配信」研修会としたが、遠方であっても参加しやすさがあるため、引き続き「インターネット配信」による研修会として行っていく。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間（24時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

### 3 会 計 部 門

## 貸 借 対 照 表

令和 6年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	34,966,781	47,209,561	△12,242,780
普通預金	34,966,781	47,209,561	△12,242,780
未収金	15,238,449	16,155,147	△916,698
前払金	70,000	70,000	
流動資産合計	50,275,230	63,434,708	△13,159,478
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	49,977,986	49,982,970	△4,984
諸貯金	22,014	17,030	4,984
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	32,849,474	39,590,577	△6,741,103
減価償却引当資産	42,372,853	42,372,853	
土地	347,016,000	347,016,000	
建物	497,434,011	497,434,011	
什器備品	24,179,809	24,723,809	△544,000
減価償却累計額 △	442,289,038	433,366,384	8,922,654
特定資産合計	501,563,109	517,770,866	△16,207,757
(3) その他固定資産			
構築物	7,414,959	7,414,959	
車両運搬具	299,000	299,000	
減価償却累計額 △	7,586,479	7,433,600	152,879
電話加入権	352,024	352,024	
預託金	24,000	24,000	
その他固定資産合計	503,504	656,383	△152,879
固定資産合計	552,066,613	568,427,249	△16,360,636
資産の部合計	602,341,843	631,861,957	△29,520,114
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	4,282,653	18,178,594	△13,895,941
未払消費税等	780,400	887,900	△107,500
預り金	652,504	709,129	△56,625
流動負債合計	5,715,557	19,775,623	△14,060,066
2 固定負債			
長期借入金	25,000,000	25,000,000	
退職給付引当金	32,849,474	39,590,577	△6,741,103
固定負債合計	57,849,474	64,590,577	△6,741,103
負債の部合計	63,565,031	84,366,200	△20,801,169
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
地方公共団体補助金	96,331,992	104,969,165	△8,637,173
寄付金	30,000,000	30,000,000	
受贈土地	347,016,000	347,016,000	
指定正味財産合計	473,347,992	481,985,165	△8,637,173
(うち基本財産への充当額)	( 50,000,000)	( 50,000,000)	( )
(うち特定資産への充当額)	( 423,347,992)	( 431,985,165)	( △8,637,173)
2 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	( 45,365,643)	( 46,195,124)	( △829,481)
正味財産の部合計	538,776,812	547,495,757	△8,718,945
負債及び正味財産合計	602,341,843	631,861,957	△29,520,114

# 正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	251,940	239,276	12,664
基本財産受取利息	251,940	239,276	12,664
特定資産運用益	40,342	1,011	39,331
特定資産受取利息	40,342	1,011	39,331
事業収益	89,128,848	98,503,349	△9,374,501
診療収益	58,072,801	64,229,124	△6,156,323
就労支援事業収益	6,578,739	7,504,630	△925,891
訓練等給付費収益	23,118,733	25,094,090	△1,975,357
就労支援自己負担金収益	378,400	426,200	△47,800
計画相談支援給付費収益	542,255	642,906	△100,651
その他の事業収益	437,920	606,399	△168,479
受取補助金等	37,152,742	36,706,742	446,000
受取国庫補助金	346,000		346,000
受取民間助成金	100,000		100,000
受取補助金等振替額	8,637,173	8,637,174	△1
北海道委託金	13,473,669	13,473,668	1
札幌市委託金	14,595,900	14,595,900	
受取寄付金	369,700	457,800	△88,100
受取寄付金	369,700	457,800	△88,100
雑収益	817,406	584,281	233,125
受取利息	753	1,062	△309
雑収益	816,653	583,219	233,434
経常収益計	127,760,978	136,492,459	△8,731,481
(2) 経常費用			
事業費	113,761,113	120,391,727	△6,630,614
給料手当	55,139,598	55,824,288	△684,690
臨時雇賃金	6,505,834	10,271,627	△3,765,793
退職給付費用	4,361,532	2,995,374	1,366,158
福利厚生費	8,943,961	9,656,856	△712,895
旅費交通費	1,826,887	1,673,141	153,746
通信運搬費	697,962	707,760	△9,798
減価償却費	9,169,194	9,026,156	143,038
消耗什器備品費	172,480	724,880	△552,400
消耗品費	2,104,571	2,771,208	△666,637
修繕費	577,863	572,853	5,010
印刷製本費	25,653	13,310	12,343
燃料費	1,577,005	1,489,205	87,800
光熱水料費	2,382,886	2,609,767	△226,881
賃借料	1,872,279	1,602,032	270,247
保険料	532,929	519,877	13,052
諸謝金	2,085,000	2,100,000	△15,000
租税公課	1,680,751	1,749,005	△68,254
支払負担金	571,094	328,794	242,300
委託費	6,049,580	5,967,876	81,704
医薬材料費		6,625	△6,625
デイケア材料費	897,417	1,002,802	△105,385
利用者工賃	5,218,788	7,372,600	△2,153,812
支払手数料	1,284,450	1,368,191	△83,741

# 正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
支払利息	83,399	37,500	45,899
管理費	14,081,636	15,145,266	△1,063,630
役員報酬	85,100	92,500	△7,400
給料手当	8,893,264	9,995,590	△1,102,326
臨時雇賃金	32,227	23,305	8,922
退職給付費用	431,361	296,246	135,115
福利厚生費	1,780,420	1,828,271	△47,851
会議費	23,316		23,316
旅費交通費	14,360	5,180	9,180
通信運搬費	72,522	70,165	2,357
減価償却費	725,338	787,630	△62,292
消耗品費	127,047	180,149	△53,102
修繕費	41,497	41,137	360
燃料費	109,744	102,354	7,390
光熱水料費	149,871	165,623	△15,752
賃借料	98,572	57,147	41,425
保険料	51,211	51,443	△232
租税公課	20,899	24,895	△3,996
支払負担金	48,006	50,106	△2,100
雑費	33,200		33,200
支払手数料	213,781	248,422	△34,641
委託費	1,129,900	1,125,103	4,797
経常費用計	127,842,749	135,536,993	△7,694,244
評価損益等調整前当期経常増減額	△81,771	955,466	△1,037,237
評価損益等計			
当期経常増減額	△81,771	955,466	△1,037,237
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	1		1
什器備品売却損	1		1
経常外費用計	1		1
当期経常外増減額	△1		△1
税引前当期一般正味財産増減額	△81,772	955,466	△1,037,238
当期一般正味財産増減額	△81,772	955,466	△1,037,238
一般正味財産期首残高	65,510,592	64,555,126	955,466
一般正味財産期末残高	65,428,820	65,510,592	△81,772
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	8,637,173	8,637,174	△1
一般正味財産への振替額	8,637,173	8,637,174	△1
当期指定正味財産増減額	△8,637,173	△8,637,174	1
指定正味財産期首残高	481,985,165	490,622,339	△8,637,174
指定正味財産期末残高	473,347,992	481,985,165	△8,637,173
III 正味財産期末残高	538,776,812	547,495,757	△8,718,945

正味財産増減計算書内訳表  
令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益		251,940		251,940
基本財産受取利息		251,940		251,940
特定資産運用益	36,711	3,631		40,342
特定資産受取利息	36,711	3,631		40,342
事業収益	76,710,669	13,214,241	△796,062	89,128,848
診療収益	44,858,560	13,214,241		58,072,801
就労支援事業収益	7,374,801		△796,062	6,578,739
訓練等給付費収益	23,118,733			23,118,733
就労支援自己負担金収益	378,400			378,400
計画相談支援給付費収益	542,255			542,255
その他の事業収益	437,920			437,920
受取補助金等	36,574,052	578,690		37,152,742
受取国庫補助金	346,000			346,000
受取民間助成金	100,000			100,000
受取補助金等振替額	8,058,483	578,690		8,637,173
北海道委託金	13,473,669			13,473,669
札幌市委託金	14,595,900			14,595,900
受取寄付金	369,700			369,700
受取寄付金	369,700			369,700
雑収益	784,272	33,134		817,406
受取利息	753			753
雑収益	783,519	33,134		816,653
経常収益計	114,475,404	14,081,636	△796,062	127,760,978
(2) 経常費用				
事業費	114,557,175		△796,062	113,761,113
給料手当	55,139,598			55,139,598
臨時雇賃金	6,505,834			6,505,834
退職給付費用	4,361,532			4,361,532
福利厚生費	8,943,961			8,943,961
旅費交通費	1,826,887			1,826,887
通信運搬費	697,962			697,962
減価償却費	9,169,194			9,169,194
消耗什器備品費	172,480			172,480
消耗品費	2,104,571			2,104,571
修繕費	577,863			577,863
印刷製本費	25,653			25,653
燃料費	1,577,005			1,577,005
光熱水料費	2,382,886			2,382,886
賃借料	1,872,279			1,872,279
保険料	532,929			532,929
諸謝金	2,085,000			2,085,000
租税公課	1,680,751			1,680,751
支払負担金	571,094			571,094
委託費	6,049,580			6,049,580
デイケア材料費	897,417			897,417
利用者工賃	5,218,788			5,218,788
支払手数料	2,080,512		△796,062	1,284,450
支払利息	83,399			83,399
管理費		14,081,636		14,081,636
役員報酬		85,100		85,100
給料手当		8,893,264		8,893,264
臨時雇賃金		32,227		32,227
退職給付費用		431,361		431,361
福利厚生費		1,780,420		1,780,420
会議費		23,316		23,316
旅費交通費		14,360		14,360
通信運搬費		72,522		72,522
減価償却費		725,338		725,338

正味財産増減計算書内訳表  
令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
消耗品費		127,047		127,047
修繕費		41,497		41,497
燃料費		109,744		109,744
光熱水料費		149,871		149,871
賃借料		98,572		98,572
保険料		51,211		51,211
租税公課		20,899		20,899
支払負担金		48,006		48,006
雑費		33,200		33,200
支払手数料		213,781		213,781
委託費		1,129,900		1,129,900
経常費用計	114,557,175	14,081,636	△796,062	127,842,749
評価損益等調整前当期経常増減額	△81,771			△81,771
評価損益等計				
当期経常増減額	△81,771			△81,771
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計				
(2) 経常外費用				
固定資産売却損	1			1
什器備品売却損	1			1
経常外費用計	1			1
当期経常外増減額	△1			△1
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△81,772			△81,772
税引前当期一般正味財産増減額	△81,772			△81,772
当期一般正味財産増減額	△81,772			△81,772
一般正味財産期首残高	58,317,287	7,193,305		65,510,592
一般正味財産期末残高	58,235,515	7,193,305		65,428,820
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	8,058,483	578,690		8,637,173
一般正味財産への振替額	8,058,483	578,690		8,637,173
当期指定正味財産増減額	△8,058,483	△578,690		△8,637,173
指定正味財産期首残高	476,292,222	5,692,943		481,985,165
指定正味財産期末残高	468,233,739	5,114,253		473,347,992
III 正味財産期末残高	526,469,254	12,307,558		538,776,812

# 財 産 目 録

令和 6年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金 普通預金 未収金 前払金	北洋銀行白石中央支店他5口座 診療報酬、診療報酬自己負担分他 前払家賃	運転資金として	34,966,781 34,966,781 15,238,449 70,000
流動資産合計				50,275,230
(固定資産)	基本財産			
	投資有価証券	第373回利付国債他	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	49,977,986
	諸貯金	北洋銀行白石中央支店	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	22,014
特定資産	退職給付引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、29,893,021円は公益目的事業会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。	32,849,474
	減価償却引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、2,956,453円は法人会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。 右記金額のうち、39,533,870円は公益目的事業会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。	42,372,853
	土地	4,819.66㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、2,838,983円は法人会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。 公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	347,016,000
	建物	1,793.7㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、464,243,115円は公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	497,434,011
	什器備品	応接セット他66点	右記金額のうち、33,190,896円は管理活動財産であり、法人会計の施設に使用している。 右記金額のうち、24,069,264円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	24,179,809
その他固定資産	減価償却累計額 △		右記金額のうち、110,545円は管理活動財産であり、法人会計において使用している。	442,289,038
	構築物	館名板他3点	公益目的保有財産であり、公益目的事業の設備として使用している。	7,414,959
	車両運搬具	トヨタウィッシュ1台	管理活動財産であり、法人会計において使用している。	299,000
	減価償却累計額 △ 電話加入権	日本電信電話㈱	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	7,586,479 352,024
	預託金	事業所敷金	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用し事業所敷金である。	24,000
固定資産合計				552,066,613
資産合計				602,341,843
(流動負債)	未払金 未払消費税等 預り金	職員及び商業者等に対する未払額 令和5年度消費税 社会保険料職員自己負担分他	公益目的事業会計及び法人会計での給与手当及び経常経費の未払分である。	4,282,653 780,400 652,504
流動負債合計				5,715,557
(固定負債)	長期借入金 退職給付引当金	独立行政法人福祉医療機構 職員に対するもの	職員に対する退職金の支払いに備えたものである。	25,000,000 32,849,474
固定負債合計				57,849,474
負債合計				63,565,031
正味財産				538,776,812

## 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

個別原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

(3) 引当金の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式

2. 会計方針の変更

該当なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	49,982,970	30,017,971	30,022,955	49,977,986
諸貯金	17,030	4,984		22,014
小 計	50,000,000	30,022,955	30,022,955	50,000,000
特定資産				
土地	347,016,000			347,016,000
建物	87,715,568		9,289,388	78,426,180
什器備品	1,075,868	275,000	452,266	898,602
退職給付引当資産	39,590,577	4,792,893	11,533,996	32,849,474
減価償却引当資産	42,372,853			42,372,853
小 計	517,770,866	5,067,893	21,275,650	501,563,109
合 計	567,770,866	35,090,848	51,298,605	551,563,109

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
投資有価証券	49,977,986	49,977,986		
諸貯金	22,014	22,014		
小 計	50,000,000	50,000,000	0	0
特定資産				
土地	347,016,000	347,016,000		
建物	78,426,180	76,331,969	2,094,211	
什器備品	898,602	23	898,579	
退職給付引当資産	32,849,474			32,849,474
減価償却引当資産	42,372,853		42,372,853	
小 計	501,563,109	423,347,992	45,365,643	32,849,474
合 計	551,563,109	473,347,992	45,365,643	32,849,474

5. 担保に供している資産

該当なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）  
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	15,238,449		15,238,449
合 計	15,238,449	0	15,238,449

7. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務  
該当なし

8. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益  
満期保有目的の債権並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
第373回利付国債	30,017,971	30,058,640	40,669
札幌市平成27年度第9回公募公債	19,960,015	19,958,018	△ 1,997
合 計	49,977,986	50,016,658	38,672

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
地域移行支援事業	北海道		7,229,669	7,229,669	0	一般正味財産
高次脳機能事業	〃		1,597,000	1,597,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	〃		4,647,000	4,647,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	札幌市		14,595,900	14,595,900	0	一般正味財産
補助金						
ワライ資格確認関係補助金	社保支払基金		346,000	346,000	0	一般正味財産
開設時施設整備	北海道	104,969,165		8,637,173	96,331,992	指定正味財産
助成金						
運営経費助成金	コープさっぽろ		100,000	100,000	0	一般正味財産
合 計		104,969,165	28,515,569	37,152,742	96,331,992	

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	8,637,173
合 計	8,637,173

11. 関連当事者との取引の内容  
該当なし

12. 重要な後発事象  
該当なし

13. その他  
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	投資有価証券	49,982,970	30,017,971	30,022,955	49,977,986
	諸貯金	17,030	4,984		22,014
	基本財産計	50,000,000	30,022,955	30,022,955	50,000,000
特定資産	土地	347,016,000			347,016,000
	建物	87,715,568		9,289,388	78,426,180
	什器備品	1,075,868	275,000	452,266	898,602
	退職給付引当資産	39,590,577	4,792,893	11,533,996	32,849,474
	減価償却引当資産	42,372,853			42,372,853
	特定資産計	517,770,866	5,067,893	21,275,650	501,563,109

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	39,590,577	4,792,893	11,533,996		32,849,474

# 収 支 計 算 書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
(1) 基本財産運用収入	240,000	251,940	11,940
基本財産利息収入	240,000	251,940	11,940
(2) 特定資産運用収入	1,000	40,342	39,342
特定資産利息収入	1,000	40,342	39,342
(5) 事業収入	98,220,000	89,128,848	△9,091,152
診療収入	66,534,000	58,072,801	△8,461,199
研修事業収入	256,000		△256,000
就労支援事業収入	4,000,000	6,578,739	2,578,739
訓練等給付費収入	26,000,000	23,118,733	△2,881,267
就労支援自己負担金収入	432,000	378,400	△53,600
計画相談支援給付費収入	598,000	542,255	△55,745
その他の事業収入	400,000	437,920	37,920
(6) 補助金等収入	28,069,000	28,515,569	446,569
国庫補助金収入		346,000	346,000
民間助成金収入		100,000	100,000
北海道委託金収入	13,473,000	13,473,669	669
札幌市委託金収入	14,596,000	14,595,900	△100
(8) 寄付金収入	300,000	369,700	69,700
寄付金収入	300,000	369,700	69,700
(9) 雑収入	306,000	817,406	511,406
受取利息収入	1,000	753	△247
雑収入	305,000	816,653	511,653
事業活動収入計	127,136,000	119,123,805	△8,012,195
<b>2. 事業活動支出</b>			
(1) 事業費支出	116,048,000	110,726,323	5,321,677
給料手当支出	56,695,000	55,139,598	1,555,402
臨時雇賃金支出	6,506,000	6,505,834	166
退職給付支出	10,496,000	10,495,936	64
福利厚生費支出	9,555,000	8,943,961	611,039
旅費交通費支出	1,827,000	1,826,887	113
通信運搬費支出	698,000	697,962	38
消耗什器備品費支出	173,000	172,480	520
消耗品費支出	2,218,000	2,104,571	113,429
修繕費支出	578,000	577,863	137
印刷製本費支出	325,000	25,653	299,347
燃料費支出	1,709,000	1,577,005	131,995
光熱水料費支出	3,515,000	2,382,886	1,132,114
賃借料支出	1,873,000	1,872,279	721
保険料支出	642,000	532,929	109,071
諸謝金支出	2,369,000	2,085,000	284,000
租税公課支出	1,783,000	1,680,751	102,249
負担金支出	572,000	571,094	906
委託費支出	6,162,000	6,049,580	112,420
雑支出	50,000		50,000
医薬材料費支出	20,000		20,000
デイケア材料費支出	898,000	897,417	583
利用者工賃支出	5,219,000	5,218,788	212
手数料支出	2,081,000	1,284,450	796,550
支払利息	84,000	83,399	601

## 収 支 計 算 書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
(2) 管理費支出	16,227,000	13,962,997	2,264,003
役員報酬支出	141,000	85,100	55,900
給料手当支出	9,548,000	8,893,264	654,736
臨時雇賃金	33,000	32,227	773
退職給付支出	1,039,000	1,038,060	940
福利厚生費支出	2,331,000	1,780,420	550,580
会議費支出	40,000	23,316	16,684
旅費交通費支出	35,000	14,360	20,640
通信運搬費支出	156,000	72,522	83,478
消耗品費支出	589,000	127,047	461,953
修繕費支出	42,000	41,497	503
燃料費支出	129,000	109,744	19,256
光熱水料費支出	265,000	149,871	115,129
賃借料支出	125,000	98,572	26,428
火災保険料支出	75,000	51,211	23,789
租税公課支出	21,000	20,899	101
負担金支出	104,000	48,006	55,994
支払利息支出	38,000		38,000
雑支出	34,000	33,200	800
手数料支出	326,000	213,781	112,219
委託費支出	1,156,000	1,129,900	26,100
事業活動支出計	132,275,000	124,689,320	7,585,680
事業活動収支差額	△5,139,000	△5,565,515	△426,515
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
(1) 基本財産取崩収入	30,023,000	30,022,955	△45
投資有価証券売却収入	30,023,000	30,022,955	△45
(2) 特定資産取崩収入	11,535,000	11,533,996	△1,004
退職給付引当資産取崩収入	11,535,000	11,533,996	△1,004
投資活動収入計	41,558,000	41,556,951	△1,049
2. 投資活動支出			
(1) 基本財産取得支出	30,023,000	30,022,955	45
投資有価証券取得支出	30,018,000	30,017,971	29
諸貯金取得支出	5,000	4,984	16
(2) 特定資産取得支出	6,396,000	5,067,893	1,328,107
退職給付引当資産取得支出	4,896,000	4,792,893	103,107
減価償却引当資産取得支出	1,225,000		1,225,000
什器備品取得支出	275,000	275,000	
投資活動支出計	36,419,000	35,090,848	1,328,152
投資活動収支差額	5,139,000	6,466,103	1,327,103
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計			
2. 財務活動支出			
財務活動支出計			
財務活動収支差額			
IV 予備費支出			
当期収支差額		900,588	900,588
前期繰越収支差額	34,979,000	43,659,085	8,680,085
次期繰越収支差額	34,979,000	44,559,673	9,580,673

## 収支計算書に対する注記

### 1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、未払消費税等、預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

### 2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金 預 金	47,209,561	34,966,781
未 収 金	16,155,147	15,238,449
前 払 金	70,000	70,000
合 計	63,434,708	50,275,230
未 払 金	18,178,594	4,282,653
未 払 消 費 税 等	887,900	780,400
預 り 金	709,129	652,504
合 計	19,775,623	5,715,557
次期繰越収支差額	43,659,085	44,559,673

## 4 監査報告

# 監査報告書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会  
理事長 阿部 幸弘 様

私たち監事は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

#### (2) 計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 6 年 5 月 15 日

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

監事 谷内 毅 

監事 児玉 真史 

# 資 料 編

## 1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿 (令和6年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	阿 部 幸 弘	こころのリカバリー総合支援センター所長
副理事長	松 原 良 次	北海道精神病院協会会長 札幌花園病院院長
常務理事	藁 島 信 彦	北海道精神保健推進協会事務局長
理 事	高 橋 義 人	北海道精神神経科診療所協会会長 桑園メンタルクリニック院長
理 事	小 出 英 子	NPO法人オーク会副理事長
理 事	人 見 嘉 哲	北海道保健福祉部技監
理 事	成 澤 元 宏	札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部長
理 事	中 村 末太郎	北海道精神障害者家族連合会会長
理 事	南 部 賢	北海道中小企業家同友会札幌支部インクルーシブ委員会委員長 光情報通信株式会社代表取締役
監 事	竹 内 巖	北洋銀行常勤監査役
監 事	兒 玉 真 史	北海道新聞社常勤監査役
評 議 員	石 山 貴 博	NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会副理事長
評 議 員	大 澤 恵留美	北海道大学病院リハビリテーション部技師長
評 議 員	岡 崎 大 介	北海道精神保健福祉センター所長
評 議 員	鎌 田 隼 輔	札幌市保健福祉局精神保健福祉センター所長
評 議 員	菅 原 悦 子	NPO法人札幌市精神障害者家族連合会会長
評 議 員	池 田 桂 子	こころのリカバリー総合支援センター「リラの会」会長
評 議 員	矢 部 滋 也	一般社団法人北海道ピアサポート協会代表理事
評 議 員	田 中 美奈子	こころのリカバリー総合支援センター医療参事
評 議 員	土 肥 一 一	こころのリカバリー総合支援センターOB会会長
評 議 員	西 村 正 樹	認定NPO法人DPI (障害者インターナショナル) 日本会議 副議長

## 2 財団法人設立から、今日までの経過等

- 昭和62年 7月 7日 財団法人設立準備委員会発足 (第1回会議)
- 〃 8月10日 財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立準備委員会 (第2回会議)
- 〃 8月11日 財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立発起人会 (設立総会)
- 昭和62年 8月20日 民法第34条の規定に基づく財団法人北海道精神保健推進協会設立許可申請
- 〃 9月 1日 同上許可 (北海道知事)
- 〃 9月 1日 財団法人北海道精神保健推進協会事務局設置
- 〃 9月10日 法人登記

平成 元年	2月16日	「札幌デイ・ケアセンター」開設
〃 21年	4月 1日	「こころのリカバリー総合支援センター」に改称
〃 24年	4月 1日	財団法人から公益財団法人へ移行
〃 26年	6月16日	就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」開設
〃 28年	6月16日	就労移行支援事業所「ここスタ」開設
〃 28年	6月16日	相談支援事業所「ココクル」開設
〃 30年	4月 1日	就労定着支援事業所開設（こころカ・プロダクション内）
令和 2年	4月 1日	就労移行支援事業所「ここスタ」の名称を多機能型事業所「こころカ・プロダクション」に統一

### 3 施設の概要

#### (1) 「こころのリカバリー総合支援センター」

所在地	札幌市白石区平和通 17 丁目北 1 番 13 号	
建物構造	鉄筋コンクリート 1 部 2 階建	
面積	敷地面積	4,819.66 m <sup>2</sup>
	建築延面積	1,793.7 m <sup>2</sup>
	・管理訓練棟	1,315.5 m <sup>2</sup>
	(うち 90.7 m <sup>2</sup> を「ここプロ」「ココクル」で使用)	
	・体育館	463.20 m <sup>2</sup>
	・附属建物	15.00 m <sup>2</sup>
付属設備	テニスコート	1 面

#### (2) 「こころカ・プロダクション」

所在地	札幌市白石区平和通 15 丁目北 13 番 18 号	
建物	民間住宅借上 木造 3LDK	90.26 m <sup>2</sup>

### 4 基本財産

基本財産の総額は 5,000 万円で、すべて関係団体の寄附金及び北海道、札幌市からの出捐金であり、その内訳は次表のとおりである。

(単位：円)

機 関、団 体 名	金 額
北海道精神病院協会	10,000,000
北海道精神障害者家族連合会	10,000,000
札幌市婦人福祉推進協会	10,000,000
北海道	10,000,000
札幌市	10,000,000
計	50,000,000